

平成20年度事業報告書

十勝の基幹産業である農業生産は平成20年度も順調に推移し地域経済を力強く支えています。この豊富な農畜産・酪農、水産物等の付加価値向上のため平成5年の当財団設立以来、食品加工技術支援事業の他、地域振興支援事業、物産振興支援事業を基軸に業務を推進してまいりました。また、平成18年からは工業系「もの作り」の支援施設である十勝産業振興センター事業を開始し複合的、総合的視野で地域活性化のための事業を展開して参りました。

今年度も十勝産農畜産物の高付加価値化に関する技術開発や工業系製造技術の技術向上をテーマとして帯広畜産大学や公立試験研究機関、地元企業と連携し事業推進に努めました。

また、財務面では基本財産の効率的運用に努めるとともに、当財団の自主自立に向け、バイオマス、食品加工、機械工業に関する新規課題を掘り起こし補助・受託事業の拡大についても積極的に取組んで参りました。

今後とも地域産業の高度化を図るため産学官連携を一層強化し所期の目的達成に向け、更なる努力を傾注してまいり所存ですので一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域振興支援事業は同業種及び異業種交流事業として「ヒューマンネット十勝」や各種関係団体の運営支援や人材育成、交流促進事業を実施しました。

地域活性化支援事業はバイオマス利活用に関する調査・研究事業に取組み、「エタノール混合ガソリン（E10）を使用した自動車の走行試験」（環境省）、「バイオマス利用モデルの構築事業」（農林水産省）の他、「都市エリア産学官連携事業（調査事業）」（文部科学省）など帯広畜産大学や公立試験研究機関との連携による研究開発事業を推進しました。

物産振興支援事業は「とちちを食べよう！秋を満喫フェア2008」等十勝産品の販路拡大を目的としてPR事業を実施するとともに「フードックス・ジャパン2009」への出展支援、各地における十勝産品の販路拡大のための物産展への参加などの事業を実施しました。

産業連携支援事業は帯広畜産大学の地域共同研究センターなどとの連携のもと、地域産業活性化のためマーケティング、新事業、中小企業再生、創業などの支援事業を実施するとともに、産学官連携に努め十勝圏域における産業クラスターの形成に向けた取組みを行いました。

十勝圏地域食品加工技術センター事業は、食品加工相談、技術指導、各種講習会・研究会などにより地域の食品加工技術の向上、製品開発を促進するとともに検査分析、設備機器開放等の事業を実施しました。試験研究事業では 5 課題について研究開発を行い、地域の食品加工技術力の高度化に努めました。

十勝産業振興センター事業は工業系「ものづくり産業」活性化の拠点として企業との共同研究を行うとともに産学官連携を積極的に推進し農業関連産業の他、機械・金属関係、電子、木材加工などの地域産業における新製品の開発・研究支援業務を推進しました。

財務面では財団全体の事業活動収入総額 469,938,338 円、事業活動支出総額 426,112,092 円で今期事業活動収支差額は 43,826,246 円となり、これに投資活動収支、財務活動収支、前期収支差額を加算した次期繰越収支差額は 67,326,581 円となりました。

基本財産は、日本甜菜製糖(株)様より 200 万円、鎌田商事(株)様より 60 万円の出捐を頂いたことにより前期末に対し 260 万円増加し 12 億 7,070 万円となりました。